

壱岐島における観光DX基盤構築および段階的高度化事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

- ・ 壱岐島は、豊かな自然や歴史・文化資源、玄海の海の幸に恵まれた島嶼観光地であり、神社や史跡等を巡る旅行者に加え、近年はインバウンドを含む個人旅行者の来訪も増加している地域である。
- ・ 観光スポットや路線バス等の二次交通情報が、多言語で一元化されていないため、回遊導線が分かりづらく旅行者の利便性が低い。また、旅行者の行動を体系的に把握する仕組みが整っておらず、データに基づいた施策が実施できていない。
- ・ 本事業では、観光スポットやバス停に設置したQRコードを旅行者の行動起点とし、多言語AIコンシェルジュによるレコメンド等により、旅行者の実際の行動を生み出すとともに、その行動をデータとして蓄積・可視化する仕組みを構築する。
- ・ 多言語で情報を取得し、移動後も迷わず島内を回遊できる観光環境を整え、二次交通利用者の需要分散と消費拡大につなげる、行動観測型の観光DXモデルの確立と、次年度以降の高度化への発展を目指す。

事業概要

壱岐市内において、QRコードを起点に多言語AIコンシェルジュによる案内、バス停起点の徒歩1時間圏内の行動マップ、統合データ基盤を一体的に実装する。旅行者の情報取得から回遊、消費に至る行動をウェブサイト上のログとしてダッシュボードで可視化し情報提供や回遊導線を改善することで、オーバーツーリズムの未然防止や地方誘客の促進に取り組む。

取組地域：長崎県壱岐市

コンソーシアム名：壱岐市観光地域づくり協議会

代表事業者：一般社団法人壱岐市観光連盟

実証内容

1. 多言語観光案内機能による情報提供高度化
2. 回遊導線設計による周遊促進の実証
3. 観光行動データの取得・可視化基盤の構築

目標値

KGI 回遊率(島内2地点以上の実来訪)(60%)

KPI スポット閲覧数(8,000件)

